

## 多職種連携のためのアカデミックリテラシー

責任者・コーディネーター	人間科学科哲学分野 遠藤 寿一 教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科哲学分野、人間科学科法学分野、人間科学科心理学・行動科学分野、情報科学科数学分野・医用工学分野、物理学科、化学科、生物学科、外国語学科英語分野、人間科学科体育学分野、予防歯科学分野		
対象学年	1	区分・時間数	演習 30 時間
期 間	通期		
単 位 数	2 単位		

### ・学習方針（講義概要等）

医療技術の複雑化に対応するために、また超高齢化に伴う全人的医療ケア提供のために、近年、専門職間の連携の重要性が増している。そして、こうした連携を実現するために、二種類以上の専門職が共に学び合う多職種（専門職）連携教育（Interprofessional Education:IPE）が広がりを見せている。本科目は、全学部の学生が混在する少人数グループを単位とし、クリティカルシンキング・ロジカルライティングの修得、図書館演習および医療をテーマとしたワークショップ活動を行うことで、IPEに必要なアカデミックリテラシー（大学で学ぶための諸能力）を学ぶ。

### ・教育成果（アウトカム）

考える技術（クリティカルシンキング）、書く技術（ロジカルライティング）および論理学の初歩を学び、論理的な考え方や論理的な表現方法の基本を習得し、それらを応用することで、他者の発言や文章を統合的に再構成して理解したり、自分の考えを整理して分かりやすく伝えることができるようになる。またこれによって、適切な質疑応答を含むコミュニケーションやプレゼンテーションの能力が高まる。

図書館実習と文献検索演習によって、適切かつ正確な情報を検索・収集するスキルが身につく、自分の考えや表現に説得力と奥行きを与えることができるようになる。

WSをグループで行なうことで、医療人としての意識が高まり、他職種の役割や責任および多職種を目指す人の考え方を理解し、尊重する態度が身につく。また、チームワークの重要性の意識、各自の役割に対する責任感が培われ、チームに貢献するためには、自己主導型学習が大切であるという認識も形成される。

#### 【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロ・マポリシー：1, 7

・到達目標（SBO）

1. 発言（文章）に含まれる議論の構造を読み取り、隠れた前提を明示して、根拠の妥当性を批判的に検討することができる。
2. 主張・根拠・結論を備えた文章作成ができる。
3. 論理的思考入門：論証のタイプ（演繹・推測〔帰納法や仮説演繹法など〕）が判別でき、基本的論理関係（逆・裏・対偶・必要条件と十分条件など）を説明できる。
4. 必要な情報を図書館やインターネットを利用して収集できる。
5. 調べた情報に根拠づけができる。
6. KJ法・二次元展開を使用して問題点を抽出・整理し、解決策を考え出して、それらを分かりやすく提示することができる。
7. 医・歯・薬・看護学部それぞれの職種の役割・責任を理解し、互いの立場を尊重することができる。
8. チームで考え、活動することの重要性を説明できる。
9. 相手の理解力にあわせた説明をすることができる。
10. チーム医療、保健医療福祉チーム員の機能と専門性、チーム医療の中での看護の役割について説明できる。
11. チーム医療の中での、相互の尊重・連携・協働について説明できる。

・授業日程

（矢）西 1A 講義室

【演習】

回数	クラス 月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
1	C1 C2 4/19	月	1	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	多職種・アカデミックリテラシーガイダンス 1. チームで考え、活動することの重要性を説明することができる。 2. 多職種連携が重視されるようになった歴史的・社会的な背景を理解し、その意義を説明することができる。

2	C1 4/20	火	4	心理学・行動科学分野 体育学分野 附属図書館	藤澤 美穂 講師 佐々木 亮平 助教 司書	図書館演習 1. 図書館を有効に利用し て、情報を収集し、与えられ た条件に相応しい書籍を探し 出す方法を説明することができる。
	C2 4/30	金	2	心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 附属図書館	相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 司書	図書館演習 1. 図書館を有効に利用し て、情報を収集し、与えられ た条件に相応しい書籍を探し 出す方法を説明することができる。
3	C1 C2 5/7	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	考える技術 1 1. 発言（文章）に含まれる 議論の構造、隠れた前提、根 拠を意識し、批判的に検討す ることができる。
4	C1 C2 5/14	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	考える技術 2 1. 隠れた前提を明示して、 根拠の妥当性を批判的に検討 することができる。
5	C1 C2 5/21	金	3	哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	書く技術 1 1. 論理的な文章とは何かを 説明できる。
6	C1 C2 5/28	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	書く技術 2 1. 主張・根拠・結論を備え た論理的文章を作成すること ができる。
7	C1 C2 6/4	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	確認テストとフォローアップ 1. 考える技術と書く技術の 修得度を確認し、今後の課題 を検討することができる。

8	C1 C2 6/11	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	マインドマップ1 1. 思考プロセスをミニ・マ インドマップで表現し、整理 することができる。
9	C1 6/23	水	1	哲学分野 体育学分野 附属図書館	遠藤 寿一 教授 佐々木 亮平 助教 司書	文献検索演習 1. 必要かつ適切な医療情報 を図書館やインターネットを 活用して収集することができる。
	C2 6/24	木	4	心理学・行動科学分野 哲学分野 附属図書館	相澤 文恵 教授 遠藤 寿一 教授 司書	文献検索演習 1. 必要かつ適切な医療情報 を図書館やインターネットを 活用して収集することができる。
10	C1 C2 6/18	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	マインドマップ2 1. 思考プロセスをフル・マ インドマップで表現し、整理 することができる。
11	C1 C2 6/25	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	ワークショップ① PBLWS オリエンテーション 1 1. 問題解決型学習の意義を 説明できる。 2. ワークショップの流れを 説明することができる。
12	C1 C2 6/25	金	4	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	ワークショップ② PBLWS オリエンテーション 2 1. KJ法と二次元展開法につ いて説明できる。 2. ワークショップで利用す る WebClass へアクセスす ることができる。

13	C1 C2 7/2	金	1	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 数学分野 医用工学分野 物理学科 物理学科 物理学科 化学科 化学科 化学科 生物学科 生物学科 英語分野 数学分野 英語分野 生物学科 生物学科 体育学分野 医用工学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師 江尻 正一 教授 高橋 史朗 教授 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師 中島 理 教授 東尾 浩典 講師 吉田 潤 講師 松政 正俊 教授 三枝 聖 准教授 柳谷 千枝子 講師 長谷川 大 助教 大沼 仁美 助教 阿部 博和 助教 内藤 雪枝 助教 佐々木 亮平 助教 小野 保 講師	[午前コース] ワークショップ③④ 1. セッション1：練習課題を通じてKJ.法と二次元展開法を実践することができる。 2. セッション2：KJ.法と二次元展開法をワークショップの課題に応用することができる。
14	7/2	金	2	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 数学分野 医用工学分野 物理学科 物理学科 物理学科 化学科 化学科 化学科 生物学科 生物学科 英語分野 英語分野 数学分野 英語分野 生物学科 英語分野 生物学科 体育学分野 医用工学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師 江尻 正一 教授 高橋 史朗 教授 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師 中島 理 教授 東尾 浩典 講師 吉田 潤 講師 松政 正俊 教授 三枝 聖 准教授 Jamas Hobbs 教授 柳谷 千枝子 講師 長谷川 大 助教 大沼 仁美 助教 阿部 博和 助教 Jonathan Levine-Ogura 助教 内藤 雪枝 助教 佐々木 亮平 助教 小野 保 講師	[午前コース] ワークショップ⑤⑥ 1. セッション3：作業結果について意見交換することができる。 2. セッション4：作業結果に基づいて、具体案を作成することができる 3. 課題実施：規定の時間までに、具体案を提示することができる。

15	7/2	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 数学分野 医用工学分野 物理学科 物理学科 物理学科 化学科 化学科 化学科 生物学科 生物学科 英語分野 英語分野 数学分野 英語分野 生物学科 英語分野 生物学科 体育学分野 医用工学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師 江尻 正一 教授 高橋 史朗 教授 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師 中島 理 教授 東尾 浩典 講師 吉田 潤 講師 松政 正俊 教授 三枝 聖 准教授 James Hobbs 教授 柳谷 千枝子 講師 長谷川 大 助教 大沼 仁美 助教 阿部 博和 助教 Jonathan Levine-Ogura 助教 内藤 雪枝 助教 佐々木 亮平 助教 小野 保 講師	[午後コース] ワークショップ③④ 1. セッション1：練習課題を通じてKJ法と二次元展開法を実践することができる。 2. セッション2：KJ法と二次元展開法をワークショップの課題に応用することができる。
16	7/2	金	4	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 数学分野 医用工学分野 物理学科 物理学科 物理学科 化学科 化学科 化学科 生物学科 生物学科 英語分野 英語分野 数学分野 英語分野 生物学科 英語分野 生物学科 体育学分野 医用工学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師 江尻 正一 教授 高橋 史朗 教授 奥村 健一 准教授 小松 真 講師 小田 泰行 講師 中島 理 教授 東尾 浩典 講師 吉田 潤 講師 松政 正俊 教授 三枝 聖 准教授 James Hobbs 教授 柳谷 千枝子 講師 長谷川 大 助教 大沼 仁美 助教 阿部 博和 助教 Jonathan Levine-Ogura 助教 内藤 雪枝 助教 佐々木 亮平 助教 小野 保 講師	[午後コース] ワークショップ⑤⑥ 1. セッション3：作業結果について意見交換することができる。 2. セッション4：作業結果に基づいて、具体案を作成することができる 3. 課題実施：規定の時間までに、具体案を提示することができる。

17	C1 C2 7/9	金	3	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 予防歯科学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師 阿部 晶子 准教授	特別講義 1. チーム医療の重要性を説明することができる。 2. 自分の職種がチーム医療において果たす役割について説明することができる。
18	C1 C2 7/26	月	1	哲学分野 哲学分野 心理学・行動科学分野 心理学・行動科学分野 法学分野	遠藤 寿一 教授 三浦 康宏 助教 相澤 文恵 教授 藤澤 美穂 講師 廣瀬 清英 講師	自己点検とフォローアップ 1. 特別講義等の授業を通じて学修した内容について、各自の修得度を説明できる。 2. 修得度が十分でなかった事項を自覚し、今後の課題として取り組むことができる。
19	C1 C2 9/1	水	1	哲学分野	遠藤 寿一 教授	論理的思考入門 1 1. 論証のタイプを判別し、基本的論理関係を説明することができる。
20	C1 C2 9/8	水	1	哲学分野	遠藤 寿一 教授	論理的思考入門 2 1. 科学的思考の基本となる推論のタイプを判別することができる。

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	スタディ・ナビゲーション	岩手医大・人間科学科編	人間科学科	2021
参	新版 論理トレーニング	野矢茂樹	産業図書	2006
参	考える・まとめる・表現する	大庭コティさち子	NTT 出版	2011
参	理科系の作文技術	木下是雄	中央公論	1981

・成績評価方法

ワークショップ： ルーブリックに基づいて、グループ内意見交換への参加態度（30％）をチューターが総合的に評価する。 図書館演習・文献検索・考える技術・書く技術・マインドマップ：司書および担当教員が、授業の聴講姿勢〔傾聴・質疑・メモ取り姿勢など〕（30％）・授業内容の把握（20％）・課題への取り組み（20％）を、提出課題や「ふりかえりワーク」等により評価する。

・ 特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

教科書（スタディ・ナビゲーション）と各回配布される資料を用いて、事前事後学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分とする。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

PBL-WS では各グループの意見交換や作業について、適宜チューターが WebClass 上でアドバイスを  
行う。科目責任者による、全体の受講態度にかんする講評を行う。書く技術では、作成したレポート  
作成作業について、指導教員が適宜アドバイス等を行う。

論理的思考入門では、確認テストを行い、誤答率の高い問題を重点的に解説する。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

看護師（別表 3）：基礎分野 科学的思考の基盤

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			